

高次機能障害のある患者さんの在宅ケア

(2023年2月)

1. はじめに

脳腫瘍によって脳の高次機能に障害をきたす場合があります。高次機能の低下は、「日常生活の困難さ」につながります。日々の生活の中で、ご本人はもちろん、ご家族も「なぜ？ どうして？ どうしたらいいの？」という不安な思いを抱えられることもあると思います。

このパンフレットでは、具体的な例を挙げ、なぜそのような症状になるのか、どう対応すればいいのかをご説明させていただきます。

2. 高次機能障害とは

高次機能とは、判断・計算・理解・学習・思考・言語・記憶など日常生活を送るうえで必要な機能を包括して表現したものです。

主な高次機能の障害として、

- ① 記憶障害：新しいことが覚えられない、思い出せない
- ② 注意障害：注意力が散漫になる、一つのことに集中できない
- ③ 遂行機能障害：計画を立てて物事を行うことが難しい 例：料理ができない
- ④ 社会的行動障害：感情のコントロールが難しい、意欲がない

などがあります。

高次機能障害のなかでも、言語機能の障害（失語症）は対応が異なりますので、言語機能の障害については、「失語症のある患者さんの在宅ケア」を参考にしてください。

以下に主な障害の例と具体的な対応をお示します。

① 記憶障害

「今何時？」と何度も繰り返したり、さっきご飯を食べたのに「ご飯を食べていない」と何度も言ったりすることがあります。これは、主に、記憶の障害によって起きている症状です。数分前のことを忘れてしまい、何度も同じ質問が繰り返されてしまうため、ついつい「今何時？」→「さっき教えてでしょ！」というやりとりになることが多いのではないのでしょうか。ご本人にとっては、初めて質問しているのに、「さっきも教えた」と言われると、不安と混乱が起きてしまい、どんどん落ち着かなくなるという悪循環に陥ってしまうこともあります。

記憶障害に対する対応のポイントとして、①注意の転換をはかる、②簡単な動作を入れる、③安心できる時間を持つ、があります。

具体的な対応

例 1

「今何時？」と何度も尋ねる。

「●時だよ。そろそろお茶でも飲もうか。コップを出してもらっていい？」

お茶の時間に注意を転換し、コップを出すなどの簡単な動作を入れ、一緒にお茶を飲むことでホッとする時間を持つ。

例 2

「今何時？」と何度も尋ねる。

「●時だよ。そろそろ△お願いしてもいいかな？」

この△には、ご本人が得意にしていたことや日課にしていたこと、毎日くり返し行ってきたことを提案してみてください。繰り返した動作の記憶は「手続き記憶」と呼ばれ、障害を受けにくいとされています。例えば、長年主婦をしながら家族を支えていた女性にタオルを渡すと、素晴らしい手さばきでタオルを畳んでくれたりします。日々の生活に困難さを抱えているご本人にとって、何も迷わずできることがある時間は、とても安心できる時間になります。

② 注意障害

ソワソワして落ち着かない、話を聞いてくれずコミュニケーションをとるのが難しい、食事の途中で他のことに気を取られてしまい食事が進まないなどがあります。

日常生活は様々な情報にあふれていて、私たちは、その情報を無意識に選択しています。例えば、テレビを見ている時に名前を呼ばれると、テレビに向けていた注意を切って、名前を呼んだ人のほうに向けることができます。また、多くの人が行きかい、様々な音がするような場所（駅など）でも自分に必要な情報をひろうことができます。注意障害の方では、注意を維持したり、注意を適切に切り替えたりすることが難しくなります。

対応のポイントとしては①注意を向ける、②情報の届け方、③休息、があります。

具体的な対応

例

テレビを見ている状態で声をかけた。

「お父さん、お風呂入って。タオルと着替えは洗面所にあるからね。風邪ひかないようにしっかり髪乾かしてね」

返事がないので「ねえ聞いているの？」とやや大きめの声で言う

「うるさい！！」

この場面では、まず、テレビに注意が向いていること、加えて会話の情報量が多すぎるため情報処理ができず反応ができません。そのような状態の時に大きな声で強めに言われると混乱し、強い反応につながってしまいます。

まず注意をこちらに向けます。その方法は、ノックの音で注意を引いたり、少しテレビの音を小さくして名前を呼んだりする方法があります。その際、ご本人の正面から声をかけたほうが注意をひきやすいです。

次に、一つずつ情報を渡していきます。

「お風呂入る？」返事を待って「着替えは洗面所ね」返事を待って「髪も乾かしてね」といった感じです。

ご本人にとっては、常に情報が溢れすぎている状況です。私達が、多くの人であふれている慣れない場所で過ごしている状況を想像してもらうといいかもしれません。

注意障害のある患者さんは脳がとても疲れます。そのため、適宜、昼寝など休息の時間を持つことが大切です。

③ 遂行機能障害

「約束の時間に間に合わない」・「仕事が約束どおりにできない」・「仕事や課題を途中で投げ出してしまう」・「いつもと異なる依頼をすると、できなくなってしまう」・「効率良く/手際良く料理が出来ない」・「家事に時間を要す」などの症状がみられます。これらの症状はリハビリなどの訓練で改善する可能性があります。まずは与えられた短い仕事・課題をしっかりとできるように、マニュアルなどを作成してやってみましょう。家族が見守ってあげることも大切です。

④ 社会的行動障害

感情のコントロール低下や、対人関係の低下、理性の欠如、人格変化、固執性などの症状のほか、意欲・発動性の低下、抑うつ、感情の調節ができない（感情失禁）、片付けられないなどの症状がみられます。

何が不安なのか、どういときに気持ちがたかぶるのか、患者さんとよく話してみましよう。お薬で感情をコントロールできることもありますので、主治医によく相談しましよう。ご家族や介護者の方が一日付き合っているよりも、気分転換のためにデイサービスやショートステイなどを利用することも重要です。

3. さいごに

高次機能の低下は、日常生活に影響するため、ご本人はもちろんご家族は、不安や辛さを感じることも多いと思います。脳腫瘍が進行した場合には、高次機能の障害がさらに進行していくことがあります。患者さんに対して、時に優しくできない自分を責めるような気持ちになることもあるかもしれません。そんな時は、一人で抱えこまず、主治医、看護師などに相談をしてください。このパンフレットがケア方法の工夫につながり、患者さんご本人はもちろん、ご家族に少しでも穏やかな時間が生まれるお手伝いになれば幸いです。

編集・発行

JSNO 特定非営利活動法人日本脳腫瘍学会 <https://www.jsn-o.com/>

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2 杏林大学医学部内

TEL : 0422-47-5511 (内線 4546) E-mail : jsno@jsn-o.com

作成者 日本脳腫瘍学会 脳腫瘍支持療法委員会

杉本 智波 (福岡脳神経外科病院 脳卒中看護認定看護師)

松岡 藍子 (国立がん研究センター中央病院 リハビリテーション科)

野村 恵子 (NPO 法人脳腫瘍ネットワーク (JBTA))

百田 武司 (日本赤十字広島看護大学)

櫻田 香 (山形大学医学部 看護学科・基礎看護学講座 教授)

成田 善孝 (国立がん研究センター中央病院 脳脊髄腫瘍科)

発行日 2023年2月1日

本パンフレットの内容については、必ず医師・看護師など医療者の説明を聞いてご使用ください。
無断で本パンフレットの内容を複製・転載することを禁じます。